

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

事故概要：

転落防止柵の土中用支柱を打込機械にて打ち込みをしていたところ、直下1mに埋設されていた上水道管に接触し破損した。

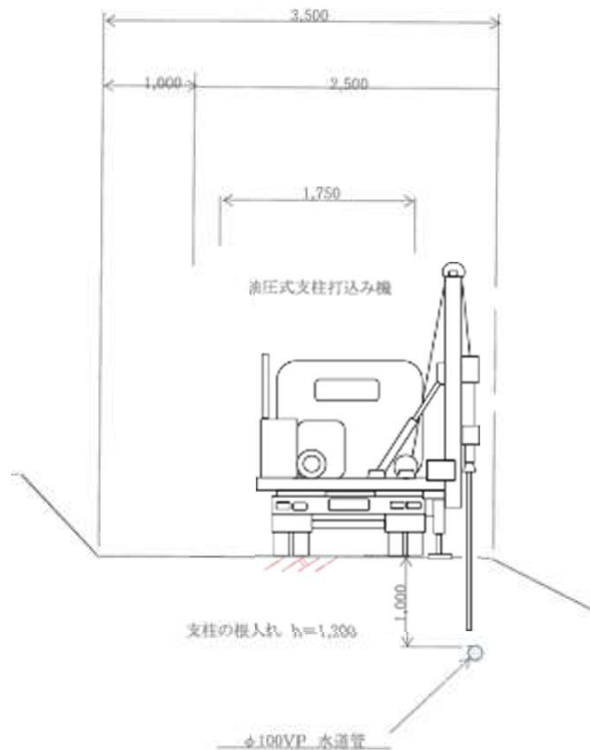
事故原因：

水道管が想定外の位置に埋設されていた

改善対策：

試掘等を行い、具体的な位置確認を行う。

事故発生状況断面図



管破損箇所



分類：防護柵工、支柱打込

被害状況：民家1軒1時間半の断水(外出中のため実質被害なし)

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

事故概要:

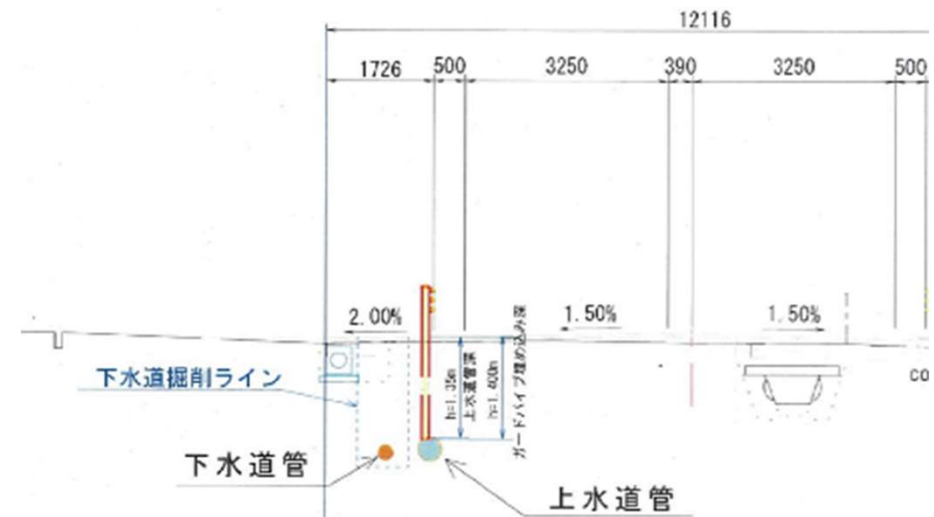
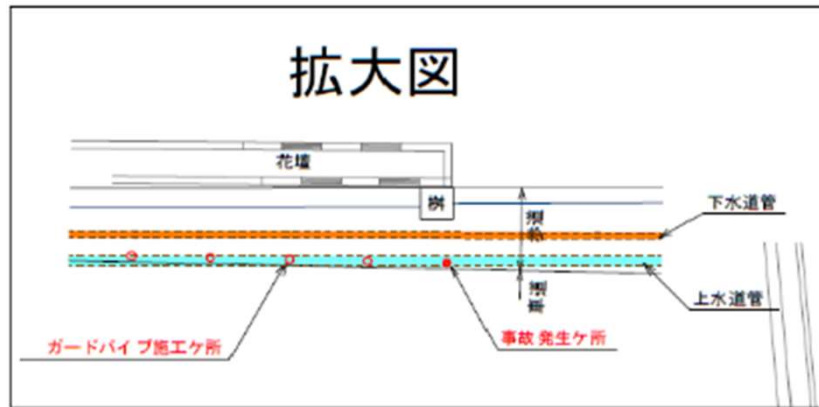
歩車道境界部にガードパイプ支柱(土中式)を打ち込み中に、市水道管を破損した。

事故原因:

埋設物の事前調査や試掘を行うべきところを怠った

改善対策:

事前調査、試掘、報告の徹底。



分類: 防護柵工、支柱打込

被害状況: 断水となるが、別ルートにて給水

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

【事故概要】

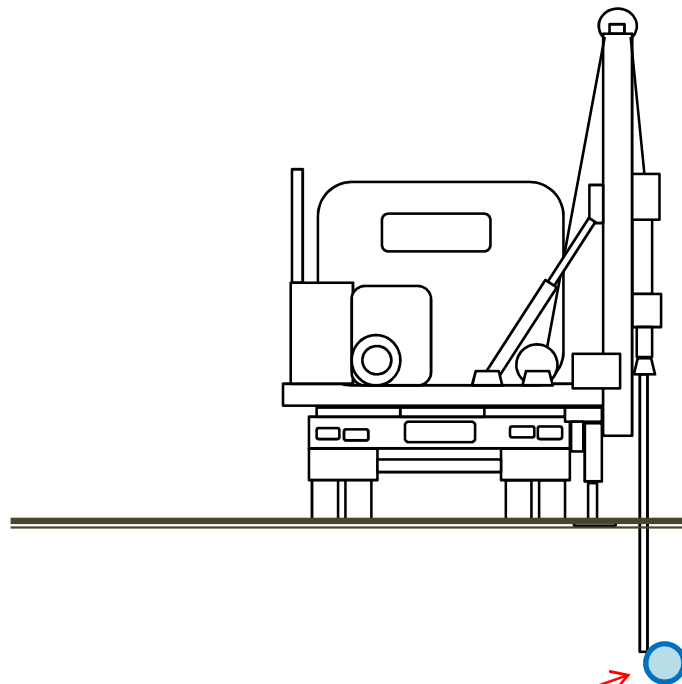
防護柵設置（土中式ガードパイプ）のため、杭打機で支柱の打込作業を行っていたところ、既設水道管に支柱が接触し損傷させた。（事故発生後、水道管理者と現地立会、調整を行い、翌日、指定水道業者により、不断水工法で断水することなく、復旧作業を行った。）

【事故原因】

- ・埋設物の事前調査について、確認すべき管理者に漏れがあった
- ・打込み途中に施工状況が変化したにも関わらず、確認を行わなかった

【改善対策】

- ・地下埋設物責任者を選定し、埋設物チェックリストを活用した事前確認を徹底する
- ・打込み途中に施工状況が変化した場合、作業を中止して監督員に報告し、確認を行う



水道管（φ200mm、鋳鉄管）に
約150mmの亀裂が生じた

袋ジョイントを用いた不断水工事により復旧



【分類】 防護柵工、支柱打込

【被害状況】 水道管破損（断水なし）

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

防護柵設置工において、交差点隅切り部で建柱作業中に、建柱機械のエアハンマー一部が歩行者用信号機に接触し、同信号機の一部を損傷させた。

【事故原因】

- ・現場代理人が支柱打込み位置のみ監視し、信号機と建柱機械との離隔の確認を怠った。
- ・作業前のKYにおいて、架空物に注意することを情報共有していなかった。
- ・現場代理人が、施工可能であるとし、安全に施工するための協議を怠った。

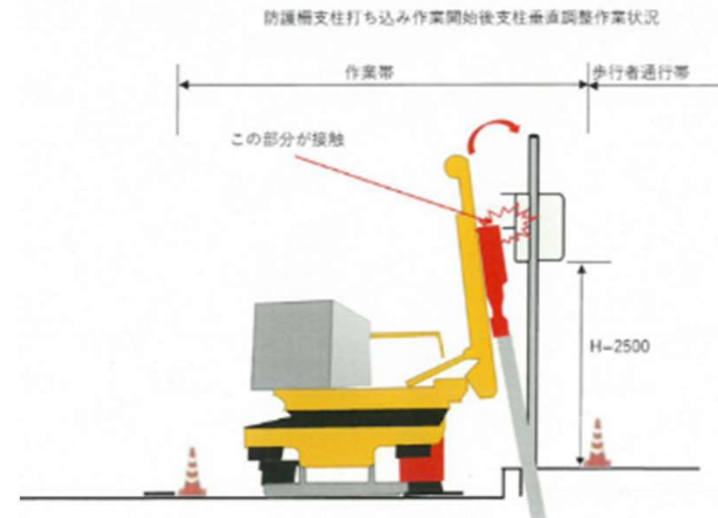
【改善対策】

- ・架空物等（信号機）が有る場合は、監視員を配置する。
- ・作業前のKY活動で、架空物等への注意を払うことを、全作業員に認識させることを徹底する。
- ・現場代理人は、支柱打込みの際、架空物が支障となる恐れがある場合は、施工方法の変更等の協議を行う。

事故状況写真



事故状況図



【分類】 安全施設工 支柱打込み

【被害状況】 歩行者用信号機の液晶部上のツバが変形
信号機の機能に支障なし

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（地下埋設物損傷事故）

【事故概要】

本件は、交差点部に防護柵を設置する工事において、支柱の建柱作業中に、埋設された信号機ケーブルを切断し、信号機を点滅及び消灯状態にさせたもの。

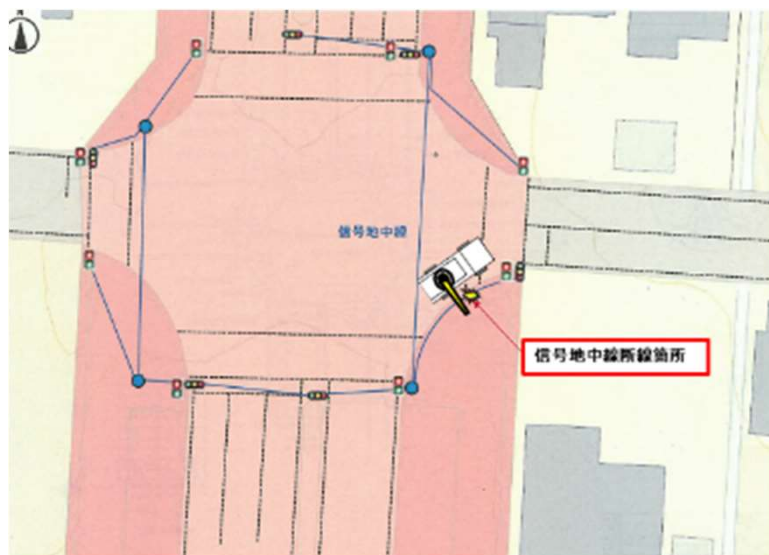
【事故原因】

- ・事前に試掘を行っていたが、埋設線の位置特定を怠った。
- ・試掘箇所に建柱する予定であったが、位置をその試掘範囲内で、わずかではあるが安易に変更した。（試掘斜面の背面に埋設ケーブルが存在）

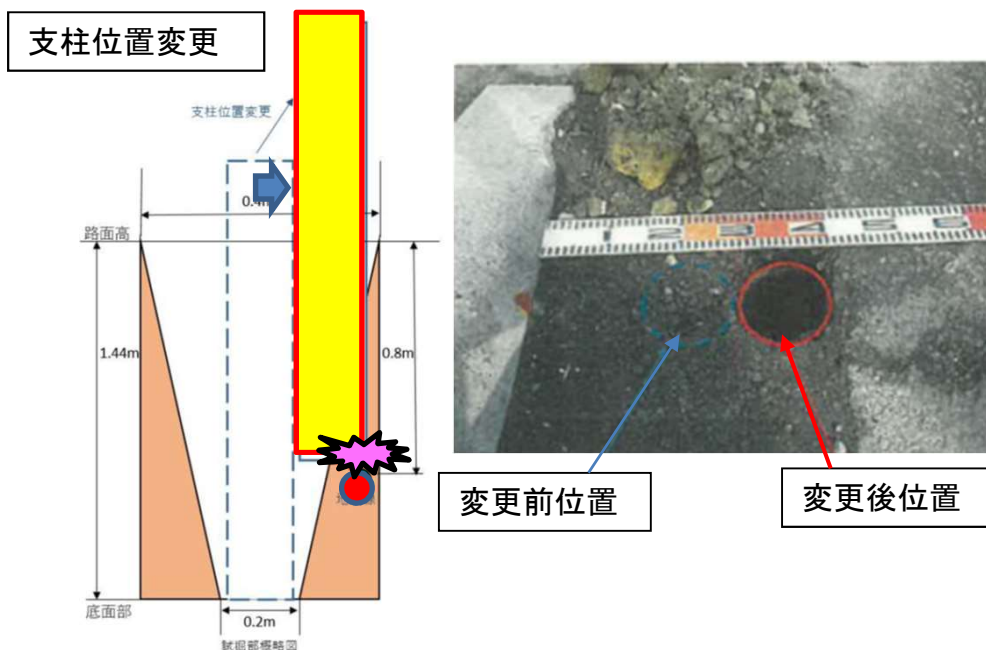
【改善対策】

- ・地下埋設物の事故防止マニュアルに基づく安全管理対策の実施を徹底する。
- ・試掘時に、計画位置または影響範囲に埋設物がないことを確認するのか、地下埋設物自体の存在を確認するのか試掘目的を明確化したうえで確実に調査を実施し、試掘結果情報の周知徹底をする。

事故状況図



現場状況断面



【分類】 安全施設工 支柱打込み

【被害状況】 公衆災害 ・信号機機能の一時停止(2時間半後復旧)

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（飛来物・落下物事故）

【事故概要】

落石防護柵支柱設置作業において、バックホウでワイヤーを用いて支柱をシャックルで吊り擁壁工へ設置しようとした時、シャックルが外れ吊っていた支柱が落下し作業員の手に当り負傷した。

【事故原因】

- ・吊荷の支柱にシャックルを取り付ける際、支柱でねじ込みが隠れてねじ込みができたか確認できないまま吊り上げた。
- ・事故当日、KY活動で荷の吊上げ時に吊荷の点検を行うことしていたが、シャックルのネジの締付まで確認していなかった。

【改善対策】

- ・シャックルの使用を中止し、鋼板縦吊り用金具SL型を使用する。
- ・吊り金具、ワイヤーロープの点検を毎日使用前に行う。また、吊荷を吊上げたら約10cmの高さで一旦停止し、吊荷の安定を確認する。
- ・擁壁高さに応じて、クレーン車を使用し、支柱を吊る。



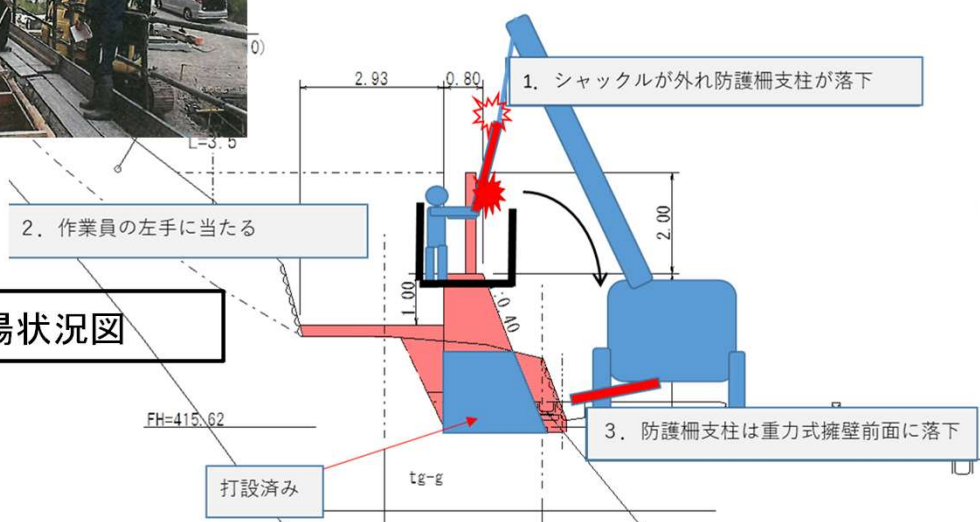
シャックル



シャックルの支柱に取付け状況。ねじ込み部が支柱の下面になり締付状況の確認が困難



事故現場状況図



【分類】防護柵工、支柱打込

【被害状況】業者人身 男1人 左手挫滅創（2週間の加療）

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物事故）

【事故概要】

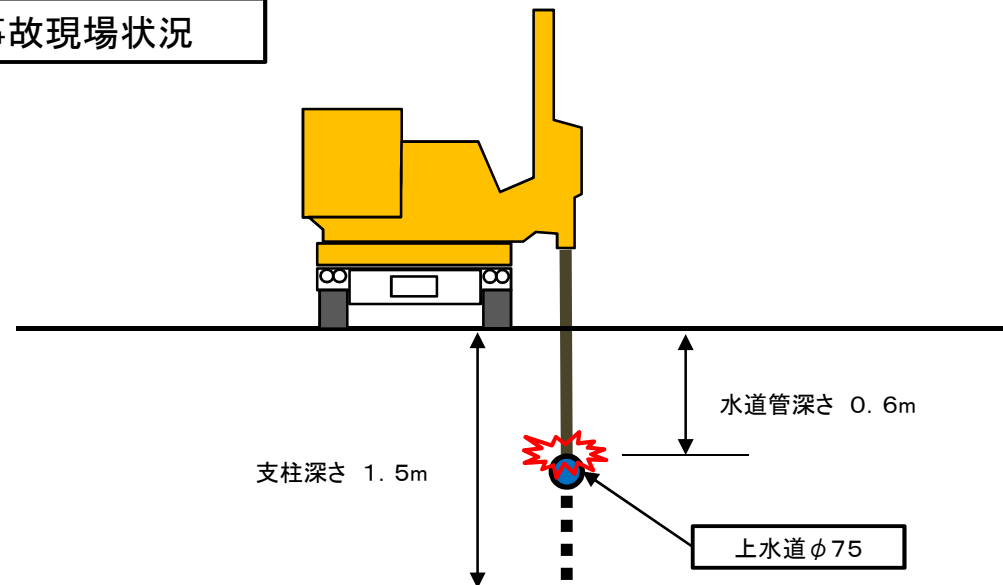
防護柵設置工事において、管理者のPC端末にて受注者が埋設管を確認したが見落とした。そのため支柱の打ち込み作業中、上水道本管（ $\phi 75\text{mm}$ ）に支柱先端を接触させ、破損し漏水させた。

【事故原因】

・事前調査における埋設調査時に、管理者PC端末上の埋設管を見落として施工したため。

【改善対策】

- ・配管図を入手し、現地状況と照らし合わせながら埋設管位置の確認作業を行う。
- ・施工業者内において第三者により地下埋設物の再確認を行う。
- ・埋設管管理者との打ち合わせ内容を書面で残す。



【分類】防護柵工 支柱打込

【被害状況】 公衆物損 消火栓1基 3時間断水

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（工具・資材事故）

【事故概要】

縁石をコアボーリングマシンで削孔後、コンクリート殻を引き抜く作業中、誤ってハンマードリルの作動ボタンを押してしまった。その際ドリルの回転部分を手で掴んでいたため、ゴム手袋が巻き込まれ左手小指を裂創した。

【事故原因】

・ドリル長の選定を誤ったことにより、保護具（ハンドル）が作業の支障となってしまう、保護具を外して作業を行ったこと。

【改善対策】

- ・適切な長さのドリルを選択した上で必ず保護具（ハンドル）を付けて使用する。
- ・安全ロック機能があるものは必ず使用し、その機能がないものは電源を切る。
- ・手袋は革手袋等巻き込まれにくいものを使用する。
- ・作業手順書に保護具（ハンドル）を確実に持ち、回転部分は絶対に触らないことを明記し、KYミーティング時に作業手順書及び現物、写真資料等にて周知徹底する。
- ・使用する機械が普段と違う場合等、使用前点検及び操作方法の確認を実施してから使用することを周知徹底する。

事故時保護具（ハンドル）なし



保護具（ハンドル）装着



【分類】防護柵工 支柱打込

【被害状況】業者人身 55歳 左小指裂創